

上智大学オープンキャンパス体験授業(2006年7月31日)

世界の貧困問題ー闇と光ー

下川雅嗣(外国語学部国際関係副専攻)

- 1.世界の貧困問題概説
- 2.貧困の原因(貧困は自然発生ではない)
- 3.開発援助は貧困問題を解決するか
- 4.視点を変える必要性(貧困者の視点から)
- 5.私たちの貧困者・第三世界に対する関わり方

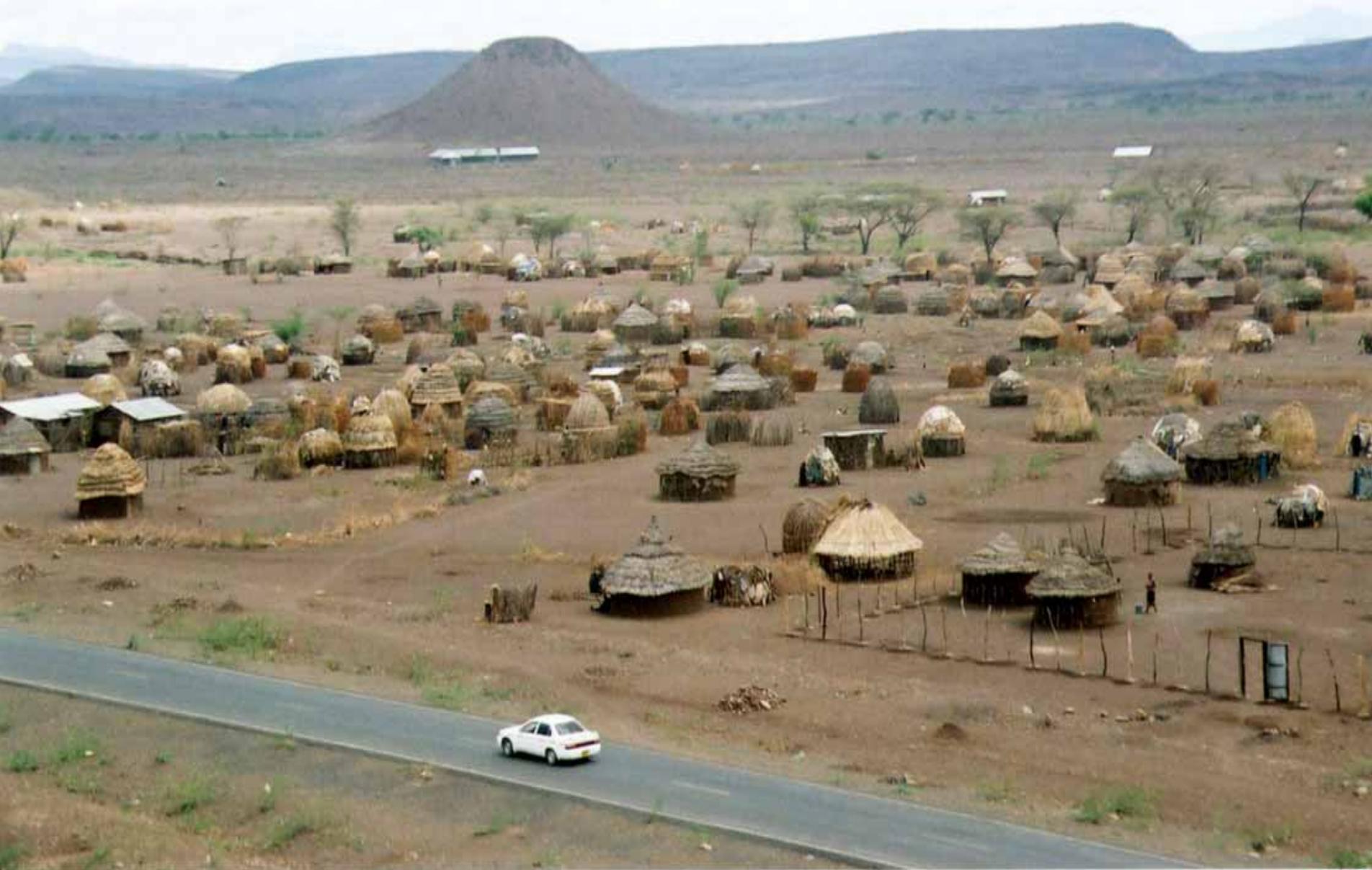
フィリピン・メトロマニラ(ごみの山で生活している人々)



インド・ムンバイ(ダラビ):約80万人



ケニア・カクマ難民キャンプ



貧困とは

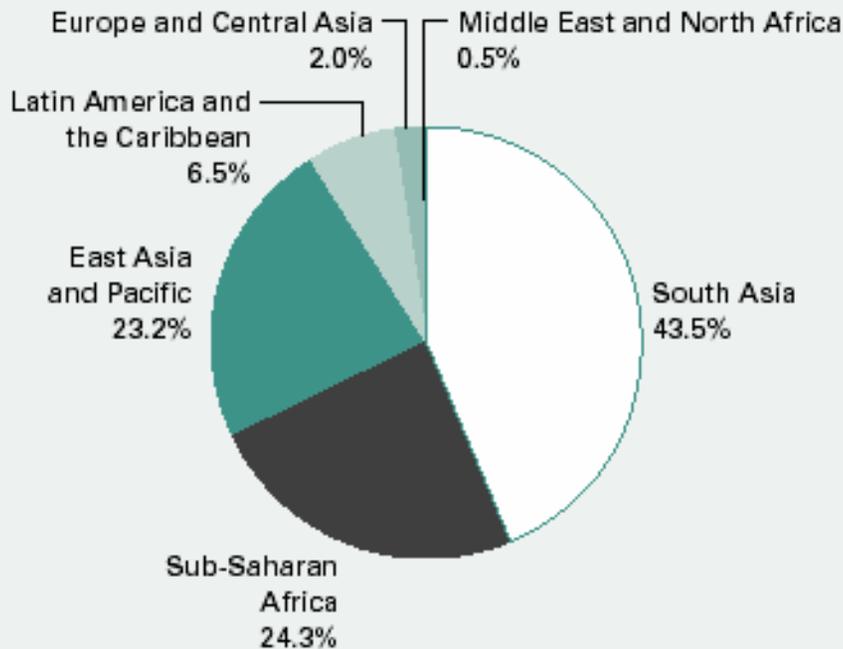
1. 所得面の貧困：一人当たりGNP
 - 1日1\$(場合により2\$)以下の所得の時、貧困。
2. 基本ニーズの貧困
 - 衣食住、保健医療サービス、初等教育等「人間にとって必要最低限のニーズ」が欠如している状態。
3. 能力面での貧困
 - アマルティア・センの潜在能力(Capability) アプローチ
→ 潜在能力の欠如が貧困。
 - 貧困とは、単に所得の低い状態ではなく、(選択の)自由が欠如している状態。もちろん、低所得は、(選択の)自由を奪う大きな要因の一つ。

世界の貧しい人々

世界人口60億のうち、半数に近い28億人が1日2ドル以下、6分の1にあたる11億人が1日1ドル以下の生活。

Figure 1
Where the developing world's poor live

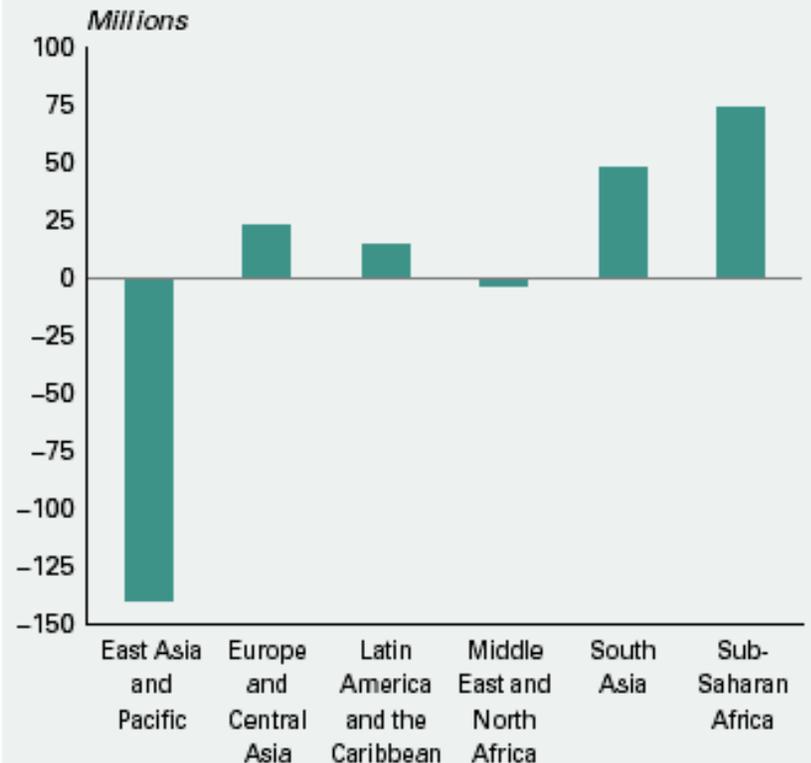
Distribution of population living on less than \$1 a day, 1998 (1.2 billion)



Source: World Bank 2000s.

Figure 2
Where poverty has fallen, and where it has not

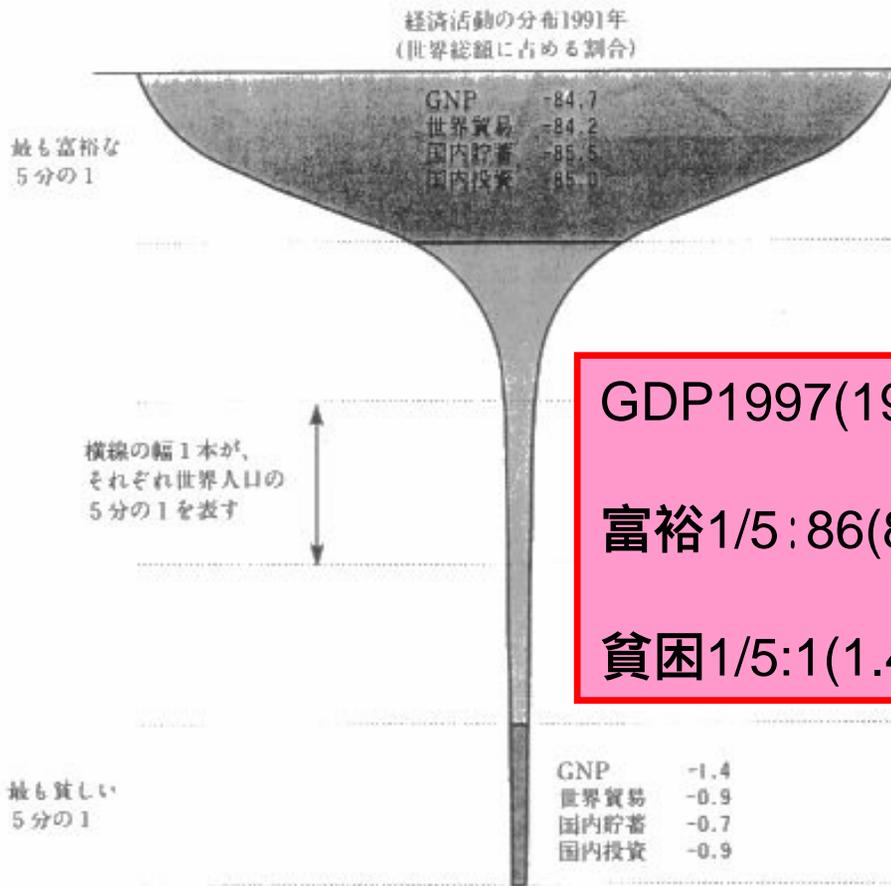
Change in number of people living on less than \$1 a day, 1987-98



Source: World Bank 2000s.

世界の経済格差

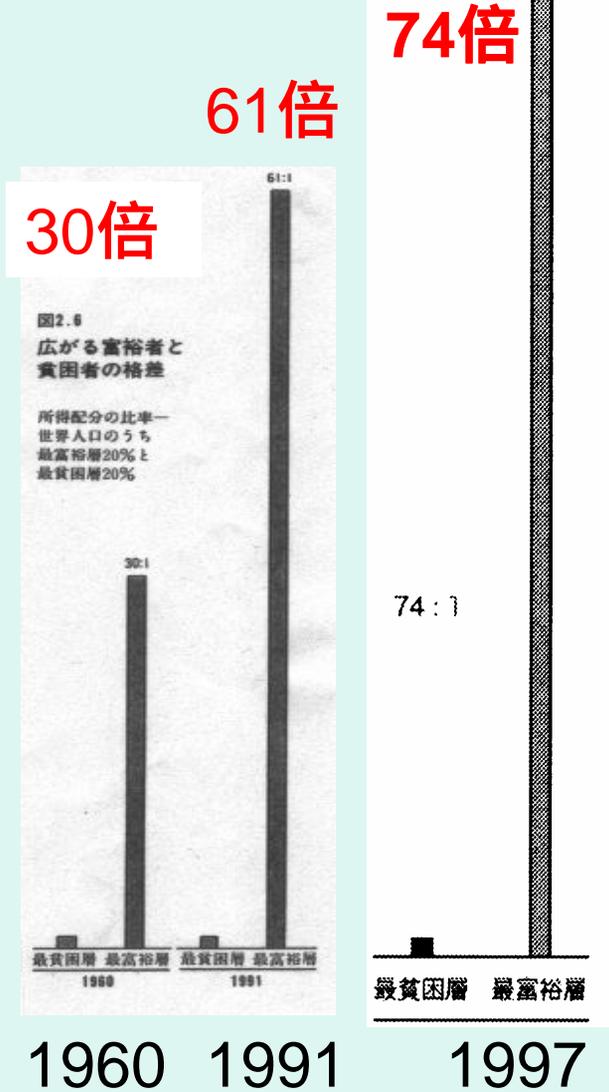
図4.3
世界の経済格差



GDP1997(1991)

富裕1/5:86(84)%

貧困1/5:1(1.4)%



乳幼児死亡率(1000人あたり)

by 2003HDR(2001),

シエラレオネ	182	カンボジア	97	フィリピン	29
アフガニスタン	165	パキスタン	84	タイ	24
ニジュール	156	ケニア	78	メキシコ	24
ザンビア	112	インド	67	アメリカ	7
ナイジェリア	110	バングラ ディッシュ	51	日本	3
イラク(1990,40)	107	ブラジル	31	全世界	56

5歳未満児の死亡率の高い上位6カ国

(1000人中、2001)

シエラレ オネ	316	リベリア	239
ニジェー ル	265	マリ	231
アンゴラ	260	後発開発 途上国	160
アフガニ スタン	257	先進工業 国	7

平均寿命

国	1992	1997	2001	国	1992	1997	2001
アフガニスタン	43.4	45.5	43.1	ニジュール	47.5	48.5	45.6
ウガンダ	43.9	39.6	44.7	ベナン	47.7	53.4	50.9
シエラレオネ	44.0	37.2	34.5	ソマリア	48.0	47.0	47.9
ギニア	44.4	46.5	48.5	ルワンダ	48.1	40.5	38.2
ギニアビサオ	44.5	45.0	45.6	エチオピア	48.1	43.3	45.7
マラウイ	45.3	39.3	38.5	モザンビーク	48.2	45.2	39.2
ザンビア	46.2	40.1	33.4	ジンバブエ	56.1	44.1	40.0
マリ	47.0	53.3	48.4	日本	78.6	80.0	81.3
アンゴラ	47.4	46.5	40.2	先進国	74.6	77.7	78.1

By HDR(1994, 1999,2003)

貧困の原因：貧困は自然発生ではない

植民地時代の歴史(歴史的原因)。

市場至上主義

(現在の国際経済構造的な原因(理念的問題))

新自由主義的グローバリゼーション

市場経済の基本原理(メカニズム)とその問題点

<市場経済の基本原理>

神の見えざる手(アダム・スミス)

「個々人が市場において自分の望むとおりに行動していたとしても、また行動してこそ社会的に望ましい状態が達成される。」

→新自由主義

→新自由主義的グローバリゼーション

社会的に望ましいとは効率的・資源の無駄がないという意味のみで、それ以外のこと(貧富の格差)は無視されている。

市場経済の基本原理
(現代の経済学)

自発的行動の原則
(自由)

貧困の原因：貧困は自然発生ではない

植民地時代の歴史（歴史的原因）。

市場至上主義

（現在の国際経済構造的な原因（理念的問題））

新自由主義的グローバル化

先進国のエゴ

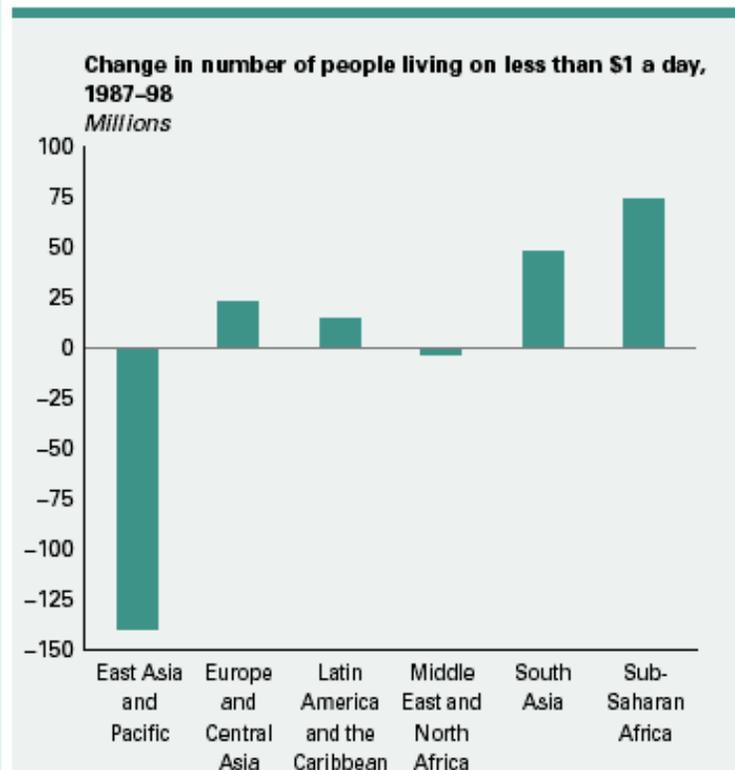
（現在の国際経済構造的な原因（現実的問題））

補助金、貿易障壁、資本収入（累積債務）、
知的所有権収入、WTO・・・

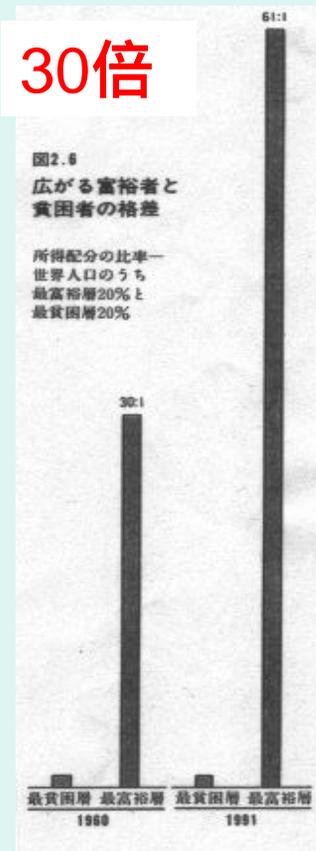
開発援助は貧困問題を解決するか

世界人口60億のうち、半数に近い28億人が1日2ドル以下、6分の1にあたる11億人が1日1ドル以下の生活。

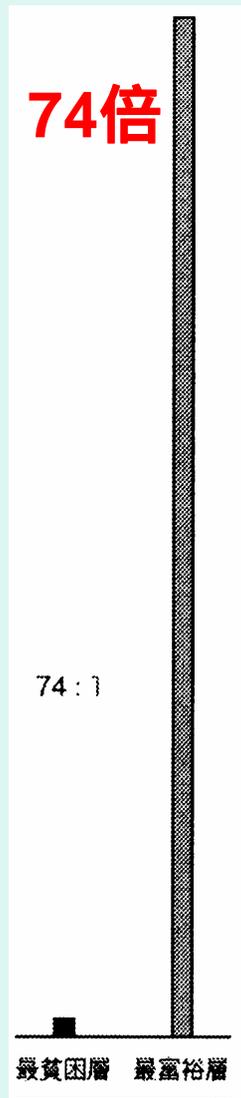
Figure 2
Where poverty has fallen, and where it has not



Source: World Bank 2000s.



1960 1991



1997

Why ? なぜ貧困問題はなくならないか

国際社会・先進国は本当に貧困を無くす意思があるのか。

貧困を無くしたいという意思を持つ人々でさえ先進国側の視点でしか考えてないのではないか

「かわいそう。何かしてあげなきゃ」

「自分たちのような社会が望ましい」

「自分たちの社会を尺度として彼らは遅れている」

視点を变える必要性(貧困者の視点から)

スラムの例

彼らに可能性と力と光があると信じることによって

1. 彼らの前にどんな障壁があるのかがわかる。
2. それを乗り越えようとする様々な彼ら自身の試みが見えてくる。
3. そこに先進国自身も学ぶべき光が存在する。

→ 貧困者自身のあゆみの発展 (People's Process
の発展) という見方

貧困者自身の自立的発展の障害

1. 土地、場所へのアクセス (Land, Place)
2. クレジットへのアクセス (Credit)
3. マーケットへのアクセス (Market)

今のグローバル化のプロセスの中で市場の自由化の方向性の偏りを是正する試み。

アジアの貧困者による3つの障害を克服する試み (People's Process)

< 共通に成果を挙げている取組み >

1. コミュニティ・オーガニゼーション
2. 貯蓄グループ (saving group)、信用貯蓄組合 (credit union): マイクロクレジット (micro credit)
3. 共同 (協同組合的) でのマーケットへのアクセス (これは非常に難しい)

アジアの貧困者による3つの障害を克服する試み

< 特徴: 彼らの試みの中にある光 >

1. 共同性: コミュニティーを基盤とした (Community-basedな) 取組みであること。
2. 主体的で創造的 (Creative) な試みであること。
3. 水平交流 (Horizontal Exchange: 住民どうしの経験交流) とネットワーク。

私たちの貧困者・第三世界の人々に対する関り方 (提案)

1. 彼らの歩みを妨げている障壁を壊すのを手伝う。
2. 彼らの歩みに可能性・光を見出し、育てる(少なくともそれをつぶさないようにする)。
3. 私たちの社会を住み良くするために彼らから学ぶ(共同性、主体性、創造性、ネットワーク)。